

東京2020大会

「東京2020復興のモニュメント」にバッハ会長が訪問

2021年8月2日



モニュメントの材料には、株式会社LIXILからの提供により、被災3県の仮設住宅で使われていた窓やドアなどを再生したアルミが使用されています。また、岩手県、宮城県、福島県の各県で2019年夏に開催したワークショップにて、各県の中学生・高校生と東京藝術大学の学生が協力し、デザインのイメージや、モニュメントに載せるメッセージを制作しました。

完成したモニュメントは現在、オリンピックスタジアム（国立競技場）近くの聖徳記念絵画館前に設置され、東京2020大会期間中多くのアスリートに見てもらおうことで、被災地からの感謝のメッセージを世界へと届けます。そして大会後は、アスリートたちからのサインを載せ、東京2020大会のレガシーとして各県に設置されます。（2021年12月予定）

訪問には、橋本聖子東京2020組織委員会会長、モニュメントをデザインした東京藝術大学美術学部卒業生岡つくしさん、東京藝術大学大学院美術研究科修士1年福井汐音さん、モニュメントの制作を指導した東京藝術大学美術学部赤沼潔教授、佐竹葉子株式会社LIXIL東京2020オリンピック・パラリンピック推進本部長が出席し、バッハ会長と交流しました。

バッハ会長の訪問にあたっては、岩手県、宮城県、福島県の各県でワークショップに参加した高校生から、バッハ会長宛にモニュメントを見てもらいたい、震災以降の世界からの支援へ感謝している等のメッセージが寄せられました。

最後に、バッハ会長と橋本会長が、被災地に向けたメッセージとサインを書きました。

メッセージとサインは、モニュメントに載せ、被災地に届けられます。バッハ会長は「東京2020オリンピック競技大会は復活の象徴です。そして東日本大震災の被災後、復興の大会として開催が決まりました。東京2020大会は、私たちが団結し、連帯することの象徴です。私たちが常に共にいることで強くなる（stronger together）ことを証明するのです。」と述べました。

大会終了後の各県における設置予定場所

- 岩手県：大槌町文化交流センター（おしゃっち）
- 宮城県：グランディ・21 宮城県総合運動公園
- 福島県：ナショナルトレーニングセンターJヴィレッジ

関連動画：東日本大震災からの復興と東京2020

動画：東日本大震災からの復興と東京2020

東京2020組織委員会の復興に向けた取り組みを詳しくみる

[オリンピック・パラリンピックと被災地復興](#)

- [組織委員会について](#)
- [お問い合わせ](#)
- [ウェブアクセシビリティについて](#)
- [リンク](#)
- [利用規約](#)
- [個人情報保護方針](#)
- [クッキーポリシー](#)
- [サイトご利用にあたって](#)
- [サイトマップ](#)
- [報道関係者の方へ](#)

©公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会
All rights reserved.

写真提供：

アフロススポーツ ゲッティー イメージズ フォト・キシモト 竹見脩吾